
グレイス・レイス

青髪ピアス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グレイス・レイス

【Nコード】

N3005M

【作者名】

青髪ピアス

【あらすじ】

グレイスとよばれる能力者とレイスとよばれる無能力者の話。

グレイス・レイス（前書き）

下手な文章ですが、よかつたらみてください！

グレイス・レイス

この世界には能力者とよばれる人がいる。

別に能力者が異常だとかそういうものは一切なく、結構な人が持っているものなのである。

割合的には、能力者が4で無能力者が6ぐらいである。

なので、能力者はグレイスと呼ばれ、そうでないものはレイスと呼ばれている。

そのレイスとよばれる人の中に霧崎明志きりさきあかしがいた。

霧崎は東条高校という高校の2年で、部活には入ってなく、友達と遊んだり、ゲームをしたり、音楽を聴いたりなどをしていてどこにでもいる普通の高校生活を過ごしていた。

そう、とある事件できごとがあるまでは・・・

霧崎はいつもと変わらない道をいつもと変わらないメンバーで自転車車をこいで家に帰っていた。

霧崎の右は荒金健司^{あらかねけんじ}、左は椿輝樹^{つばきはる}という少年である。

「荒金も椿も能力者^{グレイス}」

その3人の特徴はなんといっても髪で、霧崎は砂漠を思わせるような薄い黄色のツンツンヘアーで荒金はピンクゴールドの多少ロン毛、椿は黒と赤が混じったような色の短くもなく長くもないいわゆる普通の髪型だ。

はたから見たら、結構あやしいバンドに見えてしまう。

「つかさあ、マジで学校眠くなるな……。」

と、いきなり霧崎が言った。

「いやいや……眠くなるんじゃない、お前普通に寝てたような気が……。」

と、椿が控えめにツツコンできた。

「いや、俺は寝ていたわけではない！」

夜になっても寝ないようにするための準備をしていただけなのだ！
「！」

「それを人は寝てるといふの……だあ！？

おい、人の話を聞け……。」

「まあまあ、俺らは毎日学校で会えるんだから今はいいじゃん！」

みたいテレビがあるし。」

と、霧崎の家に行くための近道で曲がったあとに言った。
ショートカット

見晴らしがいいところなので、霧崎が言って手を振ると、椿は笑顔で手を振ってくれたが、荒金は少し不満そうな顔で手を振っていた。

「よし、家までそっこで帰るぞ。」

と、霧崎は一人でつぶやいていた。

おそらく、この時はこれから始まってしまうとある事件に霧崎も荒金も椿も東条高校の生徒も・・・おそらくほとんどの人が知る由もなかっただろう。

時は2019年5月31日。

世界は少しずつ動き出していく。
ひとびと

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3005m/>

グレイス・レイス

2010年10月14日14時30分発行